

広島市長 平和宣言全文

七十八年前の原爆投下の日を、まるで生き地獄のようだつたと振り返る当時八歳の被爆者は「核兵器を保持する国の指導者たちは、広島、長崎の地を訪ね、自らの目で、耳で、被爆の実相を知る努力をしていただきたい。あの日、熱線で灼(や)かされ、瞬時に失われた命、誰からもみとられず、やけどや放射能症で苦しみながら失われていった命。こうして失われた数え切れない多数の人々の命の重さを、この地で感じてもらいたい」と訴えています。

本年五月のG7広島サミットで各

田舎脳が平和説教資料館の視察や被爆者との対話を経て記帳された芳名録は、「こうした被爆者の願いが各首脳の心に届いている」との証しになると思います。また、慰靈碑を参拝された各国首脳に私から直接お伝えした碑文に込められた思い、「ヒロシマの心」は、皆さん的心に深く刻まれているものと思います。こうした中、G7で初めて「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」が独立の文書としてまとめられ、全ての者にとっての安全が損なわれない形での核兵器のない世界の実現が究極の目標であることが再確認されました。それとともに、各団体は、核兵器が存在する限りにおいて、それを防衛目的に役立てるべきであるとの前提で安全保障政策をとっているとの考えが示されました。

しかし、核による威嚇を行う為政者がいるという現実を踏まえるならば、世界中の指導者は、核抑止論は破綻しているということを直視し、私たちを厳しい現実から理想へと導くための具体的な取り組みを早急に始める必要があるのでないでしょうか。市民社会においては、「一人一人が、被爆者の『こんな思いは他の誰にもさせてはならない』というメ

核による威嚇停止 保有国、非保有国の分断解消を



平和記念式典で平和宣言を読み上げる
広島市の松井一実市長=6日午前8時
18分、広島市中区の平和記念公園で

やがて、世界は和やかな日常生活中で言葉や国籍、信条や性別を超えて感動を分からぬる音楽や美術、スポーツなどに接し、あるいは参加して「夢や希望がある」といった気持ちになれるような社会環境を整えることが重要となります。皆さんが、そうした社会環境を整えるために、世界中に「平和文化」を根付かせる取り組みを広めていきましょう。そうすれば、市民の支持を必要とする為政者は、必ずや市民と共に平和な世界に向けて行動するようになります。

ツセーシに込められた人類愛や寛容の精神を共有するとともに、個人の尊厳や安全が損なわれない平和な世界の実現に向け、為政者に核抑止論から脱却を促すことがますます重要なっています。

かつて祖国インドの独立を達成するための活動において非暴力を貫いたガンジーは「非暴力は人間に与えられた最大の武器であり、人間が発明した最強の武器よりも強い力を持つ」との言葉を残しています。また、国連総会では、平和に焦点を当てた国連文書として「平和の文化に関する行動計画」が採択されていました。今、起つてている戦争を一刻も早く終結させるためには、世界中の為政者が、「こうした言葉や行動計画を踏まえて行動するとともに、私たちもそれに呼応して立ち上がる必要があります。

交流を通して「平和文化」を世界中に広めます。そして、平和を願う私たちの総意が為政者的心に届き、武力によらず平和を維持する国際社会が実現する環境をつくることを目標としています。また、被爆者の平和への思いを世界中の若者に知つてもらいたい、国境を越えて広め、次世代に引き継げるようにするために、被爆の実相に関する本市の取り組みをさらに拡充していきます。

各国の為政者には、G7・広島サミットに訪れた各国首脳に統一、広島を訪れ、平和への思いを発信していただきたい。その上で、市民社会が求める理想の実現に向け、核による威嚇を直ちに停止し、対話を通じた信頼関係に基づく安全保障体制の構築に向けて「一步を踏み出す」とを強く求めます。

國との間で現に生じている分断を解消する橋渡し役を果たしていただきたい。そして、一刻も早く核兵器禁止条約の締約国となり、核兵器廃絶に向けた議論の共通基盤の形成に尽力するために、まずは本年十一月に開催される第二回締約国会議にオブザーバー参加していただきたい。また、平均年齢が八十五歳を超えて、心身に悪影響を及ぼす放射線により、生活面でさまざまな苦しみを抱える多くの被爆者の苦悩に寄り添い、被爆者支援策を充実する」ことを強く求めます。

式典に当たり、原爆犠牲者の御靈廟（みたま）に心から哀悼の誠をさげるとともに、核兵器廃絶とその実現に向けて、被爆地長崎、そして思いを同じむる世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。

令和五年（二〇二三年）八月六日
広島市長 松井一実